

## ナベツルの繁殖と分布の研究

李林<sup>1</sup>・劉相林<sup>2</sup>・郭玉民<sup>3</sup>

1. 黒竜江省野生動物研究所
2. 黒竜江省松花江林業管理局
3. 黒竜江省大慶師範学院

**摘要** 1993年5月、黒竜江省小興安嶺西部の通北林区でナベツルの繁殖巣が発見され、中国で確実にナベツルが繁殖していることが確認された。発見された場所は小興安嶺西麓の通北と沾河林業局の境界で、位置は北緯48°08′、東経127°51′である。繁殖季節に5～7羽のナベツルが見られ、一巣を発見した。本項では最近何年かの5～6月における伊春上甘嶺林業局内で見られるナベツル9～14羽についての研究を発表する。2002年4月下旬綏化林業局の張家湾林場でも4羽を見つけ、2002年6月には沾河林業局の北沾河林場においてナベツルの旧巣一つを発見、2003年6月沾河林業局北沾河林場内で育雛中の一巣を見つけ、2004年5～6月には沾河林業局北沾河にて烏斯孟と茅蘭林場でそれぞれ孵化をしたナベツルの巣を三カ所で見つけ、他に3羽のナベツルがこの地域で行動しているのを見た。烏斯孟林場では1対のナベツルが繁殖し、他に4羽が繁殖期の早くから周辺で行動しており、前進地区にも2羽のナベツルを確認しており、様々な状況からこの地域で繁殖していると思われるが、繁殖巣を見つけることはできなかった。五道林林場でも7羽のナベツルが活動しており、そのうち2対が繁殖の可能性はある(繁殖巣は未確認)。湯元林場でも4羽のナベツルが行動しており、茅蘭林場で1対のナベツルと繁殖巣、尖新山林場では1対のナベツルが行動していた。この他に南沾河と通北林業局東方紅林場始業区において1～2対のナベツルが繁殖している可能性がある。このように沾河林業局から3対のナベツルが繁殖し、4～5対の繁殖が確実と思われ、繁殖期における沾河林業局で行動している個体14羽が確認された。以上述べてところを総合すると、小興安嶺伊春地区の繁殖期には9～14羽のナベツルが見られ、沾河林業局区内には28～30羽、通北林業局2～4羽、綏化林業局に4羽が生息していると見られる。このように小興安嶺には43～52羽のナベツルが生息している。この他に内蒙古自治区海拉爾の輝河保護区と胡列也吐において夏季にマナツルの渡りなどの個体群を見ることができ、その数は数羽から数十羽と一様ではない。1976年出版の鄭作新著《中国鳥類分布名録》によると烏蘇里江、黒竜江流域にナベツルの繁殖地があり、海拉爾にも繁殖の可能性があるとされ、我々が調査したところ上述の繁殖地は現在見られず、回復不可能な状況にあり、渡り或いは非繁殖個体群のみが見られると記載されている。ナベツルの渡り個体群は黒竜江省の林甸地区、伊春地区、吉林省の莫莫格保護区と河北省北戴河である。そのうち林甸は春秋共重要な中継地で、最高2000羽を見ることができる。

キーワード；ナベツル、分布、繁殖、渡り、個体数

本文のスナップ；白頭鶴 ナベツル (*Grus monacha*)、またの名を玄鶴、銅鶴。

ツル目、ツル科に属し、わが国におけるツル類中中型の一種。

学名の意味は修道女ツル、その理由は頭頸部が白色、体が灰褐色、つまり修道女の着衣と頭巾に似ているところから名づけられた。

ナベツルは個体数が少なく、1981年《レッドデータブック》にランクされた。